

教育振興基本計画に基づいた取組

●発行元●

大阪府教育委員会教育政策課

電話: (06) - 6208 - 9027

令和4年10月27日 第3号

誰一人取り残さない学力の向上



教育振興基本計画での位置づけ

最重要目標	基本的な方向	施策	掲載ページ
未来を切り拓く 学力・体力の向上	誰一人取り残さない 学力の向上	<ul style="list-style-type: none">◎ 言語活動・理数教育の充実 (思考力・判断力・表現力等の育成)◎ 「主体的・対話的で深い学び」の推進 (各学校の実態に応じた個別支援の充実)◎ 英語教育の強化○ 全市共通テスト等の実施と分析・活用	第1編 P.12 第2編 P.34 ~P.36

- ・「全国学力・学習状況調査」の結果における平成29年度(2017年度)から令和3年度(2021年度)までの経年比較を見ると、本市の平均正答率は、全国平均との比較において全体的な改善傾向にあるものの、依然として全国水準には達していない状況です。
- ・児童生徒の発達段階を考慮しながら、読解力・言語能力、数理能力、論理的思考力、情報活用能力、課題発見・解決能力等、学習の基盤となる資質・能力や現代的諸課題に対応して求められる資質・能力等を育成していきます。

具体的な取り組み方策

文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成カリキュラム」を開発し、全ての小学校(3年生以上)・中学校で毎週1時限以上授業として総合的読解力育成の時間(「小中学生からのリベラルアーツ教育」)を実施するなど、言語活動・理数教育を通して思考力・判断力・表現力等の育成に取り組めます。

さらに、各学校の実態に応じた「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現を支援していきます。

「全国学力・学習状況調査」、「大阪市小学校学力経年調査」、「中学生チャレンジテスト」等、客観的・経年的に行われる調査結果のデータを活用することにより、各学校や一人一人の児童生徒の状況を把握し、誰一人取り残さない学力の向上に向け、個に応じたきめ細かで継続した指導・支援の充実を図ります。

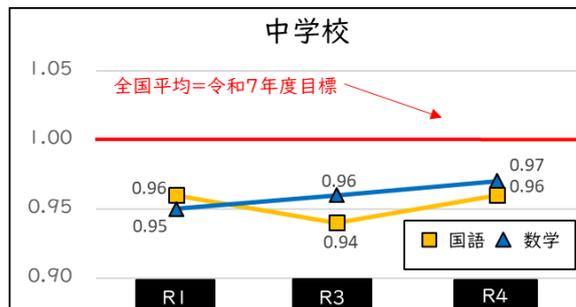
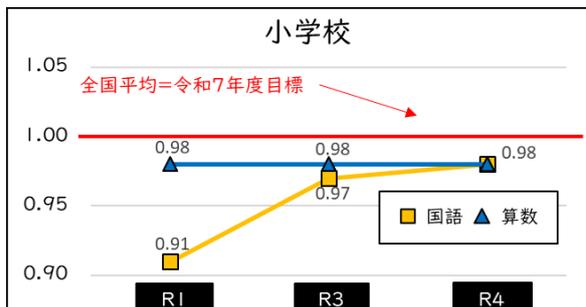
目標に対する現状、課題

○令和7年度目標(全国学力・学習状況調査)

小学校の国語、算数、中学校の国語、数学で、平均正答率の対全国比 1.00

○令和4年度の結果(全国学力・学習状況調査)

全体的に**着実な改善傾向にある**ものの、依然として全国水準には達しておらず、**さらなる教育の充実が必要**です。「学力向上支援チーム事業」を実施するなど、児童生徒の個に応じたきめ細かで継続した指導・支援を通じて、大阪市全体の学力向上につなげていきます。



また、子どもたちの理科離れが危惧され、全国的に理数教育の充実が求められています。大阪市においてもその状況は同様であり、理数教育の充実が求められています。



令和4年度の取組

【言語活動の充実】

「総合的読解力育成の時間(「小中学生からのリベラル・アーツ教育」)」の令和6年度からの実施に向け、「情報を読み取る・考えを形成する・考えを交流する・考えを表現する」といった言語活動の4要素を行き来しながら、様々なテーマで発達段階に応じて学習を進められるよう、文理融合的な内容を含む資料を使った「総合的読解力育成カリキュラム」を現在開発しています。

10月以降、モデル校(小学校5校、中学校3校)で試行し、現場の先生や児童生徒の声を聞きながらより学びやすい教材とする予定です。

総合的読解力育成の時間 (小中学生からのリベラル・アーツ教育)



【理数教育の充実】

理科教育の充実に向け、体験型の教員研修、「理科教育推進 大学連携講座」を新設しました。

この研修は、受講生(教員)が子どもの視点で、学びの楽しさを再体験します。この受講をきっかけに、子どもたちが楽しく学び、先生も楽しく教える好循環が生まれることが期待されます。

「理科教育推進 大学連携講座」 令和4年7月22日(金) 於:大阪市立科学館

《実習1》学ぶ感性を磨く「感覚(感性)を開き深めよう」

講師 水野哲雄(京都造形芸術大学名誉教授)

《実習2》学ぶ好奇心を刺激する「三葉虫を調べよう」

講師 大野昭文(京都大学名誉教授)

《実習3》学びの落とし穴を知る「貝体新書」

講師 大野昭文(京都大学名誉教授)

《体験講座》学びの伝え方を知る「プラネタリウム」

講師 飯山青海(大阪市立科学館)



[受講生の感想より]

・体を動かしたり、発表したり、班で話し合ったりと自分が参加していると実感できる研修だったことが良かったです。また、その手法がそのまま現場で生徒相手に使えるものだったので、すぐに活かすことができると感じました。

【「主体的・対話的で深い学び」の推進】、「全国学力・学習状況調査」結果の分析・活用】

学力向上に向けた小学校での取組を紹介します。
(学力向上支援チーム事業、スクールアドバイザーの活動の様子から)

八幡屋小学校 主体的・対話的で深い学びの実現をめざし算数科の研究授業を行いました。

今年度からは算数科を研究教科として主体的・対話的で深い学びの実現をめざしています。この日は研究部長が研究授業を行いました。研究討議では子どもが主体的に学ぶための導入の工夫や活発な意見交流につながる場の工夫などを討議の視点とし、マトリクスや拡大指導案を活用して研究討議を進めました。ワークショップグループに分かれて意見を交わした後はスクールアドバイザーが指導講評を行いました。



荻田北小学校 全国学力・学習状況調査の結果をもとに国語科の授業改善をめざした研修を行いました。

全国学力・学習状況調査では、自校の結果について分析し、児童の解答状況から、弱点・つまづきを捉えることが大切です。この日の研修では今回の全国学力・学習状況調査の国語科の問題を教員が改めて解いて、自校の結果について考えることで、今後の指導改善につなげることをめざしました。

